

郷土の会だより

発行責任者
岡村昭則

第13回ウォーキングサークル

古河宿 (10月5日)

天谷 範夫

下期のスタートは、古河宿からで、先日
のコース会で、予定表を配布した時に、部
活活動日と重なる方も居て、参加人数は少
ないと思っていました。私を含め、7名
での出発となりました。駅西口から直進し、
旧日光道中に出て、まずは本陣跡の石碑を
見て、北上して、旧街道を南下しながら、
街巡り。所々に、蔵などが見えます。日光
道中道標を見、肴街通りでは、蔵のある(酒
屋さんらしい)家の解体中、を目撃し、古
河一小の煉瓦の門柱を見ながら、古河文学
館に到着。館内の展示を見た後、1930年代
の蓄音機で竹の針によるレコード音楽鑑賞
会となりました。外の休憩所で昼食、休憩
し、道の向かい側の鷹見泉石記念館、敷地
内にある、奥原晴湖画室を見学して、古河
歴史博物館に。外から見た感じでは、それ
ほど大きい施設とは思いませんでしたが、
中に展示されている物の多さに見終わると、
少々疲れを感じました。鷹見泉石に関連す

るもの、藩医河口信任の脳の解剖の資料な
どが、印象的でした。帰りには、ロビーで
ストリートオルガンの演奏を聴くことがで
きました。手回しハンドルで大変そうでし
たが・・・。坂を下り長谷観音に行き、道
を北に向かい、江戸町通りに出て、永井路
子旧宅へ。土蔵造りの建物で、取り壊し予
定だった物を市が保存する事にしたと、パ
ンフに書いてあった。最後は、すぐ先の、
篆刻美術館へ。昭和初期頃からの作品が多
数展示されていますが、予備知識のない私
には、良さが判りません。三階建ての石作
りの土蔵はさすがに見応えがあります。他
に見る予定が有りましたが本日時間切れで
ここで終了。もう一度来たい場所になっ
たようです。

古河宿の経緯

古河宿は平安時代から奥州方面への宿場
町として栄え、また鎌倉時代以降は古河城
の城下町としても賑わっていた。

古河宿(こがじゅく)は、江戸時代の日光
街道(日光道中)の宿場。下総国の古河城
下に設けられ、現在は茨城県古河市中央
町・本町・横山町に相当する。日光街道の
江戸・日本橋から数えて9番目の宿場であ
る。古河藩が管理していた古河三宿(中田・
古河・野木)の一つである。1843年の『日
光道中宿村大概帳』によれば、本陣・脇本

陣は1軒づつ設けられ、旅籠が31軒(大5、
中6、小20)あった。宿内の家数は1109
軒、人口は3865人であった。將軍家による
日光社参では、古河城は岩槻城・宇都宮城
と並び、將軍の宿城とされており、日光街
道における主要な宿場の一つであった。日
光社参のときには、従者の数が膨大になる
ため、通常の宿泊施設だけでは足りずに、
城下の武家屋敷や町屋も割り当てられた。
宿場は日光街道沿いの台町・一丁目・二丁
目・横町(現在のの本町・中央町・横山町の
一部)にあったが、渡良瀬川等による河川
交通も発達していたことから、古河の町は
日光街道から河岸へ向けて折れ曲がった石
町・江戸町等にも広がり、「十字型に形成され
ていた。本陣は時期により異なるが、最も
よく知られているのは二丁目にあったもの
で、現在、跡地には「本陣跡碑」がある。
脇本陣も二丁目にあった。





古河市に残されている蔵づくり



日光道中道標



古河一小的煉瓦の門



古河文学館内風景



ストリートオルガン



長谷観音



永井路子旧宅



一期生ホームページ委員としても自分達で更新できるようにレベルアップが要求されています。

二期ホームページ委員としては、学園祭が終わらないことには動きが取れないので、学園祭終了後に本格的にホームページの充実と、自分達でホームページの更新を図っていくことが発表されました。

専科二期生のホームページはマンション形式にして専科一期生のホームページをベースに構築していくことになっていました。八月のホームページ委員の講習会后に専科二期生のホームページの立上げが行われました。そのため専科一期生ホームページの学園関連サイトにも掲載しています。

専科一期郷土の会ホームページ委員出席者
田中 忠、天谷範夫

専科二期ホームページ委員との第3回
会合が開かれました(10月1日開催)

平成22年度社交ダンスの集いに参加

彩の国いきがい大学連絡協議会主催（10月8日）

専科一期校友会の「郷土を知るコースの北氏和雄さん、岡村昭則」・「まちづくりコースの石井一好さん、玉置貞明さん」の4名が参加。

今年、校友会連絡協議会によるダンス開催にあつての不調整により、熊谷学園と鷲宮学園が不参加となる変則的な開催となり、参加人数も例年に比べて二百人近く減ると言う、数字的には寂しい大会となりましたが、県連協を脱退した大宮学園の社交ダンスクラブの参加を認めるなどの進展もありました。また、伊奈学園や蕨学園を中心とする開催担当者のご努力でこれまででない企画で内容の濃いものになりました。各学園の皆さんは5ヶ月間の猛練習をしてこのダンスの集いに参加してきますので、会場には高齢者パワーの熱気が溢れかえっていました。来年は、いきがい大学全学園の参加の下に開かれることを願ってやみません。

開会式や閉会式で県連協の役員の方々が「ボランティア」活動を特に強調され、長々と挨拶されていましたが、この場で聞くとはちよつと違和感をもったのは私だけなのでしょう。私たちは「いきがい大学」建学の精神である「いきがい作り、仲間作り、地域活動参加」の3点について学び、卒業後、大勢の人が地域活動に参加しています。ボランティア活動も健康なく

しては取組や前進もありません。また、健康であることが老人医療費の節約にも繋がっていることを思うと、社交ダンスは老人の健康増進と社会的にも大きく貢献をしていると私は確信しています。（岡村）

